



# 山口大学基金の取組み



山口大学キャラクター  
「ヤマミイ」

山口大学  
基金事務局室長（総務企画担当理事）  
古賀和利



# 山口大学の紹介

『地方こそ日本の力だ!』 ~地域とともに 時代とともに  
維新の息吹を 今 山口から世界へ~



## 【様々な取り組み】

- 知財教育、数理情報教育全学必修化
- 知的財産教育研究共同利用拠点校
- 教育の見える化(YU CoB CuS)
- 新病棟整備による機能強化
- JAXA等との連携協定  
工学部に応用リモートセンシング研究センターを開所)



## ◇ 山口大学の理念 ◇

「発見し・はぐくみ・かたちにする」知の広場

山大スピリット：共同、共育、共有

ミッション：教育・研究・地域貢献

- ◆ 1815年創基 (200年以上の歴史)
- ◆ 9学部8研究科 (3キャンパス)
- ◆ 学生数 10,283名  
(学部：8,764名 大学院：1,519名)
- ◆ 教職員数 3,842名

山口県経済に対する山口大学の波及効果 **: 675億円**

これらの主な産業以外に、「医療福祉」、「飲食・宿泊業」、「金融・保険業」、「農業」、「教育・学生支援事業」の産業等で  
**107億円の生産誘発効果**がある。

# 創基200周年から始まった寄附活動

山口大学は、1815年に長州藩士 上田鳳陽によって山口の地での学問の発展を目的に創設された「山口講堂」が原点。

2015年の創基200周年に向けて、記念事業の一環として、寄附活動を開始。

従来の**周年事業募金から、恒常的募金活動へ**・・・。

- ・「はこもの」からの脱却、「人材育成」に特化。

寄附金による収入を拡大し、**財務基盤の強化**を図る。

- ・大学の経営戦略に合わせて行うことが可能。

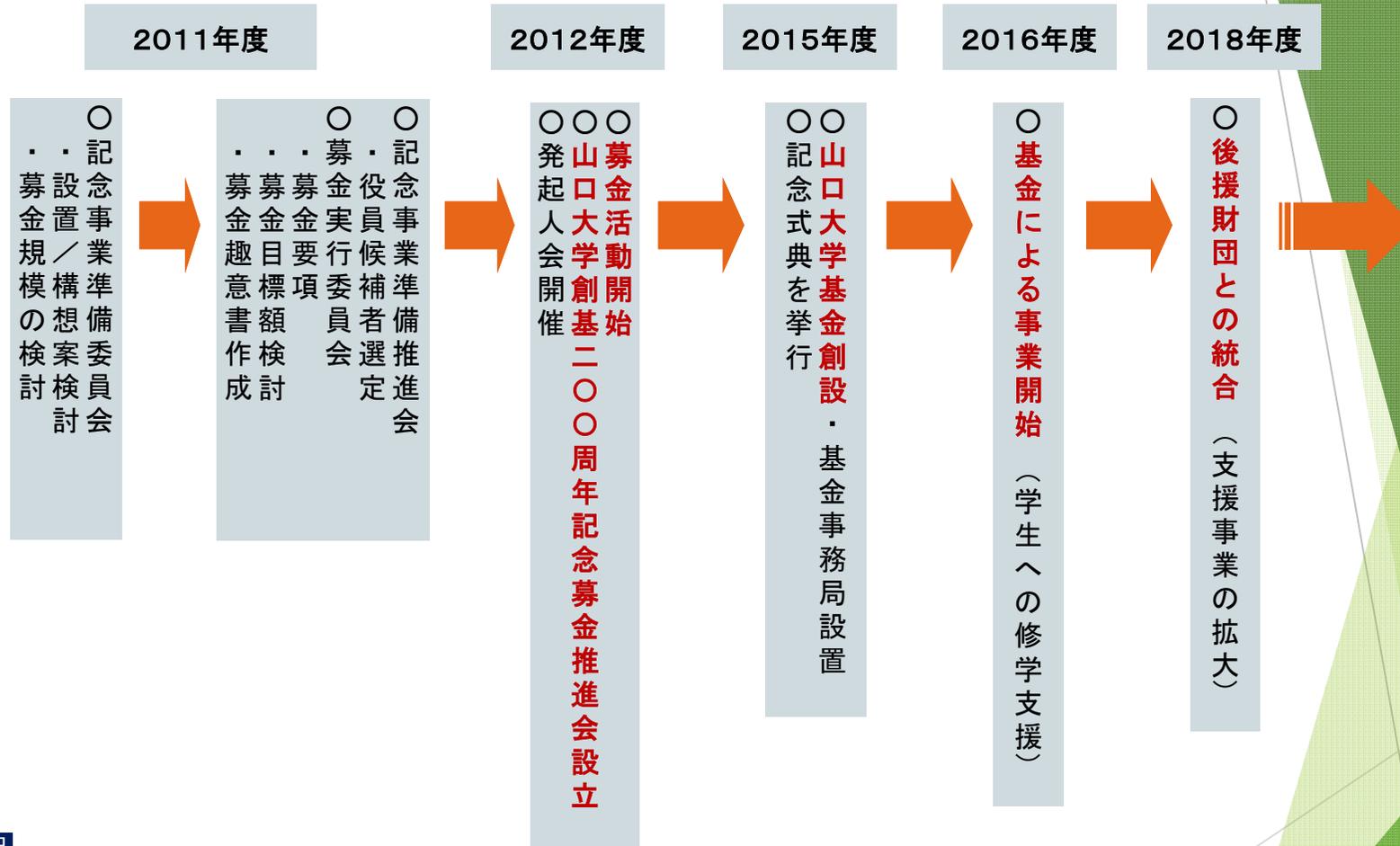
寄附活動強化のため、**専任チーム「基金事務局」**を設置。

担当者に、**学長特命補佐、基金担当部長**を配置

**20年後の事業継続を目指し**寄附活動を推進中!!

目指すは **寄附の好循環!!**

# 創期200周年記念事業募金から山口大学基金へ



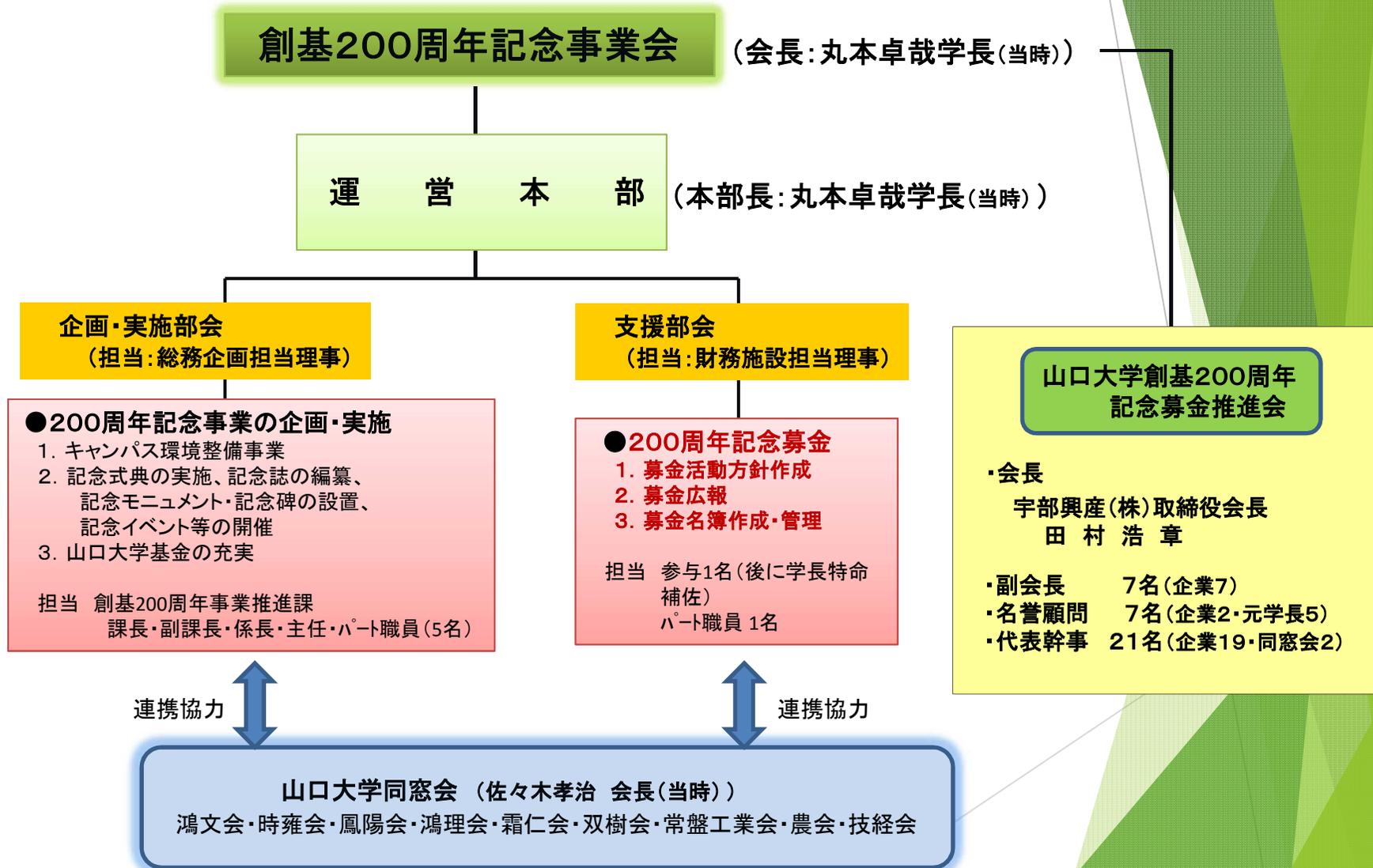
事務組織体制

記念事業

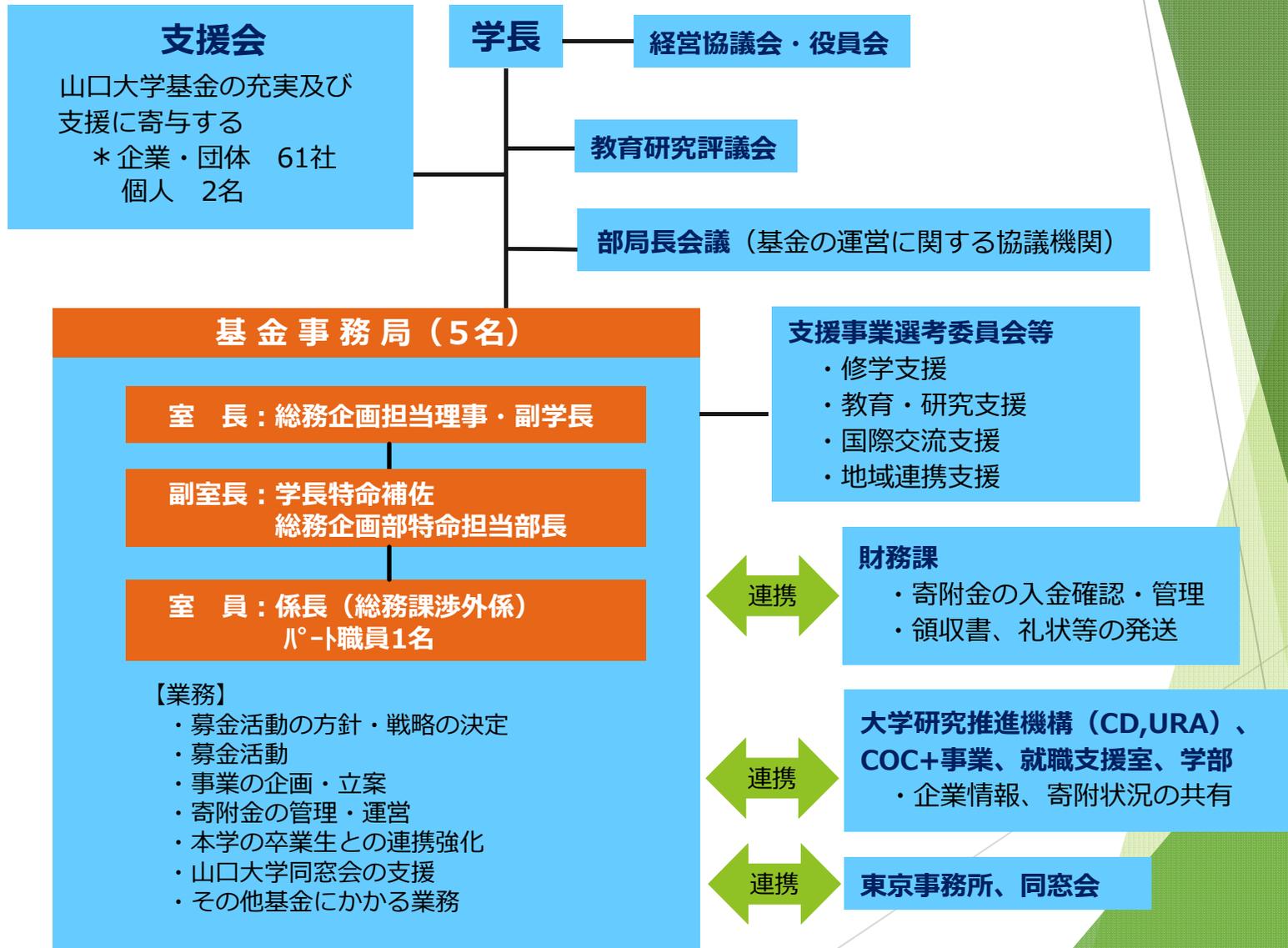
寄附活動



# 創基200周年記念事業の組織体制



# 山口大学基金の現在の体制



# 山口大学基金 スタート時のイメージ図

## 寄附金の確保

- ・ 寄附対象者： 個人, 法人・団体
- ・ 寄附単位  
 法人 1口 1万円  
 卒業生等 個人 1口 5千円  
 教職員 1口 5千円
- ・ 寄附者への顕彰など
- ・ 税制上の優遇措置  
 個人：所得税, 住民税の寄附控除  
 法人：法人税法に基づく損金算入可

企業

同窓会  
卒業生

教職員等

## 運用・拠出金

(一般寄附金)

- ・ 利付国債5～20年運用利回り目標：  
 年利 0.5 %  
 $2億円 \times 年利 0.5\% = 100万円$
- ・ 毎年度寄附目標額 (企業・卒業生・教職員等) **3,100万円**

(篤志家寄附金)

- ・ 利付国債5～20年運用利回り目標：  
 年利0.5%
- ・  $2億円 \times 年利 0.5\% = 100万円$
- ・ 2億円取り崩し10年間 = **年2,000万円**

毎年度の資金運用及び

寄附獲得目標額 **5,200万円**

支援事業への拠出 **4,500万円**

事務経費への拠出 **700万円**

# 山口大学基金

募金目標額 **10億円**

2016年までの  
募金目標額 **6億円**

目的：学生の修学支援

本学の理念である「発見し、はぐくみ、かたちにする知の広場」のもと、学生の海外留学や奨学金などの学生支援事業を充実・強化し、チャレンジ精神など、人間力とバイタリティーあふれる学生の人材育成の更なる**充実発展**に寄与する。

支援事業

## 基金の成果

### 人材育成

- 奨学金による学生支援
- 経済的困窮学生の支援
- 学生の海外派遣支援
- 外国人留学生の奨学金支援
- 学生団体活動支援

毎年度 **2,400万円**

### 七村奨学金 (給付型奨学金)

- ・ 経済的に困窮している学部学生約40名の生活支援として休業期間月を除き月7万円を、卒業時まで給付
- ・ 新入生から、10名程度選考
- ・ 平成28年度から開始

毎年度 **2,100万円程度**

支援事業金合計 **4,500万円**

事務経費への拠出 **700万円**

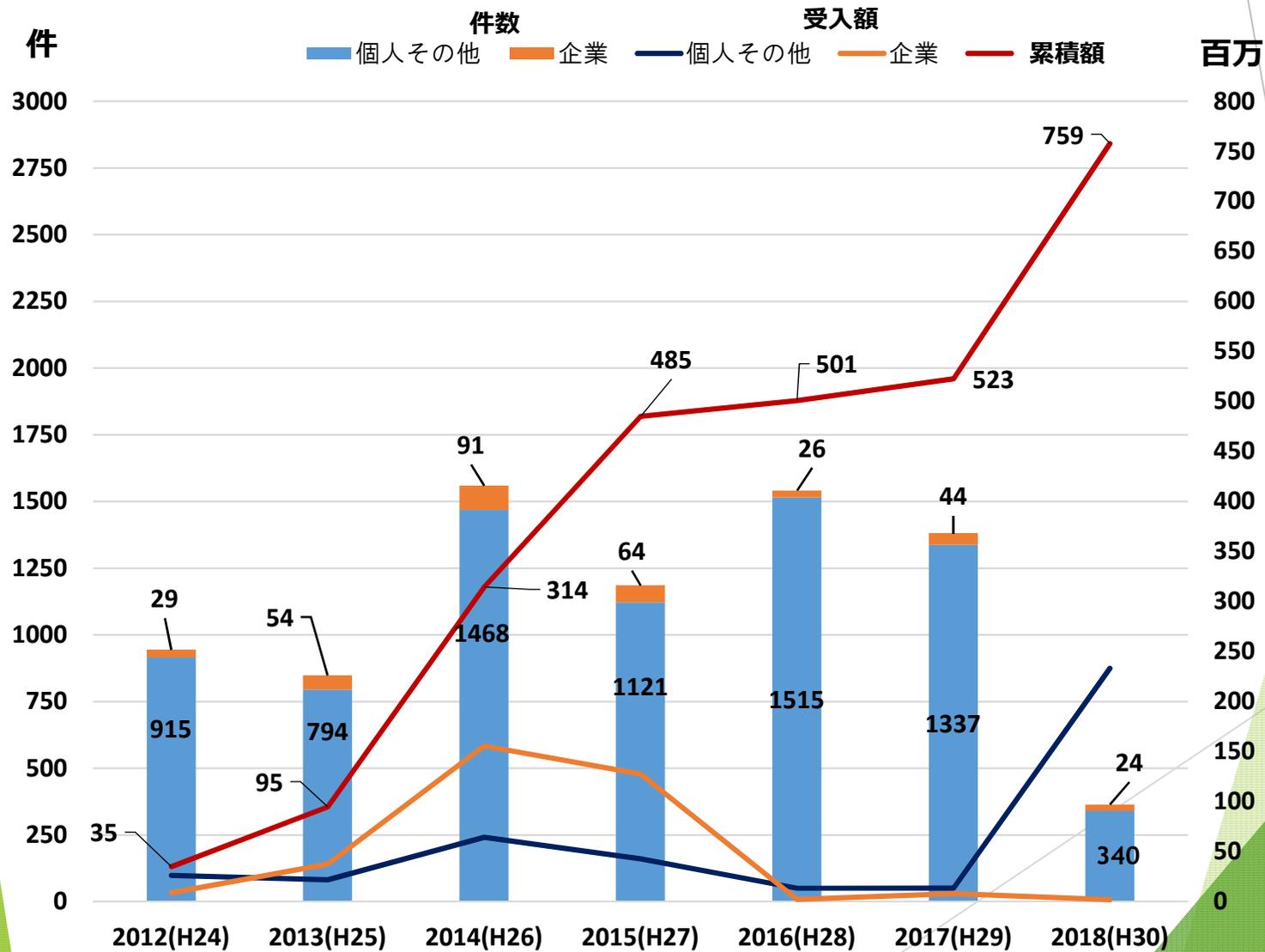
## 基金の活用

財源の確保

学生修学支援等

# 山口大学基金受入れ額・件数 (2018.6.20現在)

目標額：10億円 ➡ 受入額：約7億59百万円



# 寄附実績（2018.6.20現在）

期間：2012年6月～2018年6月

企業・法人	約3億4,200万円（45.1%）
同窓生・同窓会	約1億2,050万円（15.9%）
保護者	約 850万円（ 1.1%）
学長・理事・教職員等	約 5,800万円（ 7.6%）
後援財団の財産	約2億3,000万円（30.3%）
<hr/>	
合計	約7億5,900万円（100%）

# 修学等支援事業の取組み（平成28年度から実施）



## 七村奨学金

（返還を要しない  
給付型奨学金、  
4年又は6年間）

- \* ネーミングライツ
- \* 奨学生との懇談会を  
毎年実施

経済的困窮学生  
への授業料等の  
支援



支援学生数：  
延 300名超

支援総額：  
約 7000万円

海外留学経費の  
一部を支援



外国人留学生  
への奨学金給付



大会等で優秀な  
成績を挙げた課  
外活動、団体へ  
の支援



# 寄附活動に当たって

## ○ 大学のトップはどうあるべきか

- ・ 寄附活動に前向きかどうか
- ・ 学長から企業へのトップセールスの有効性は大きく有効理由等>
  1. 募金する側（企業）からすると、大学のトップが来訪されるのとトップ以外の者が来るのとでは、全くイメージが違う。
  2. 特に本学出身者が企業のトップにいる場合は、特に有効と考えられる。
  3. また、本学出身者の企業（社長）へ電話で挨拶し、後日代理が訪問する等の対応も有効である。
  4. なお、学長以外の者が企業訪問する場合であっても、学長の代理的な役を持って募金活動を実施する必要がある。

## ○ 担当部署は学長直属に

- ・ トップの想いを語れる組織に

## ○ 担当者には学長の代理的な役となる肩書きを

- ・ 再雇用職員に「学長特命補佐」を発令
- ・ 2017年4月に「基金担当部長」を配置

## ○ 企業との信頼関係、寄附事業の継続性を保つために

- ・ 地理的な不便さはあっても、足を運んで、face to face
- ・ 担当者は複数年の配置

# 山口大学基金のこれまでの取組

## ○ 企業への募金活動

### 1. 6ヶ月掛けて企業DBを構築

- ・卒業生が代表者等に就任している企業527社、卒業生が多く就職している企業160社のDBを構築
  - \*現在、企業データ更新中。また、企業訪問後も活動記録を更新

### 2. 全国展開の上場・非上場企業への募金活動

- ・訪問企業先の役職によっては、担当理事を同行
- ・寄附が具体的になったときに、学長若しくは担当理事を同行
- ・寄附の依頼だけでなく、大学の取組みやトピックなど、山口大学の今を伝える。
- ・先方が何を考えておられるのか、を知る。
- ・DBを基に企業内同窓会の掘り起こしも開始

### 3. 地元企業への募金活動

- ・後援財団が地元企業中心に寄附活動していたため、大学基金による寄附活動は県外を中心に行っていた → 統合により県内企業も訪問中
- ・学長が行うCOC+事業参画の企業訪問に、URAと共に同行

### 4. 訪問企業に関する事前の情報収集

- ・産学連携担当、就職支援担当、COC+事業担当、各学部寄附担当等と連携
- ・訪問後は担当部署へ情報をフィードバック

# 山口大学基金のこれまでの取組

## ○ 卒業生及び同窓会への募金活動

- ・ 会報誌送付時に依頼書等を封入 年間 約60,000部
- ・ 同窓会総会への学長・理事の出席 年間 12カ所
- ・ 同窓会総会・支部総会開催時に依頼書等を配付 年間 約1,300部
- ・ 高額寄附者の大学招待

## ○ 学生・保護者及び一般社会人への募金活動

- ・ 学生及び保護者：入学式、卒業式で依頼書等を配布
- ・ 一般社会人：地域のイベント等で依頼書等を配布

## ○ 教職員への募金活動

### 1. 教職員

- ・ 部局長会議で学長から募金の依頼の後、全教職員に学長名で正式文書を送付
- ・ 毎月、教育研究評議会で「寄附状況（各学部の明細有）」と共に「寄附者からのメッセージ」を報告
- ・ 新規採用職員研修で「山口大学基金」について基金事務局が説明
- ・ 1ヶ月ワンコイン（500円）寄附を奨励

### 2. 名誉教授・淡交会

- ・ 名誉教授懇談会・淡交会開催時に募金を依頼
- \* 2018年のホームカミングデーで相続セミナーを開催予定

## ○ ホームカミングデーの開催

- ・ 2013年度第1回開催、毎年秋に開催

# 高額寄附への取り組み

- ・大学の一番の支援者は、卒業生。
- ・同窓会名簿と会社四季報など企業情報データから、卒業生のオーナー企業を探し出す。



- ・最初のコンタクト
- ・寄附者を知る → 寄附者の背景、想い
- ・信頼の獲得
- ・寄附者の意向に添った事業の提案  
→ ネーミングライツの活用
- ・学長・理事の役割



**高額寄附の実現**

## そうは言っても・・・寄附活動の難しさ

「創基200周年記念事業」のときは、飛び込みでも企業から高額寄附をいただくことができた。

「創基200周年記念事業」が終わった今は、何を売りにするか。

頼るべきは、地元企業と同窓生、学生の保護者。どう働き掛けるのが効果的か。

学内者の協力があって、学外の協力が得られる。学内者の協力をどう拡充していくか。

ご清聴有り難うございました

